



園芸作物栽培に関する
これからの対策
と
Q&A

9月の気象と対策

8月は高温と寡雨で作物管理には苦勞しましたが、9月も引き続き高温となる見込みと予想されています。しかし例年12月上旬には降雪、降雪が見られますので、今は暑くとも秋作野菜の播種・植付けとも時期を守り

て行う必要があります。さらに本年の作付けで注意が必要なのは害虫対策です。今年は越冬した害虫が春作から多発生しており、秋作においても被害の多発が懸念されます。



大門 優
園芸アドバイザー

お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499

◎秋野菜の播種定植時期

主な野菜の播種定植時期は以下の通りです。

品目	播種時期	定植時期	収穫時期	備考
キャベツ	7月下旬~8月上旬	8月下旬~9月上旬	10月下旬~12月中旬	播種後90日~110日
ブロッコリー	7月下旬~8月上旬	8月下旬~9月上旬	10月中旬~12月中旬	脇芽は翌春でも収穫可能
ハクサイ	8月上旬~中旬	9月上旬~中旬	10月中旬~11月下旬	播種後60日~85日
レタス	8月中旬~下旬	9月上旬~中旬	10月中旬~11月下旬	
ニンジン	7月下旬~9月上旬	——	11月上旬~3月下旬	8月中旬以降は翌年穫りとなる
ダイコン	8月中旬~9月上旬	——	10月中旬~12月上旬	播種後60日~70日
カブ	8月下旬~9月下旬	——	10月上旬~12月中旬	小カブ~大カブ迄多様である。
秋ジャガ	9月上旬	——	11月中旬~下旬	農林一号かデジマ
タマネギ	9月中旬	11月上旬	6月上旬~6月中旬	貯蔵性に品種差
ホウレンソウ	9月中旬~10月上旬	——	10月下旬~11月下旬	
コマツナ	8月上旬~10月上旬	——	9月上旬~12月上旬	
ニンニク	10月中旬	——	6月上旬	ホワイト六片

◎秋野菜の定植上の留意点

播種・育苗は終盤となっており、既に定植された方もおられると思いますが、定植時及びその後の管理について記します。

◎圃場作りについて

秋作は台風シーズンを迎えますので圃場排水対策は十分におこなってください。排水の良くないところは充分畝立てをしておきます。なお、今年には害虫の発生が多いので、ネキリムシなどの予防のため元肥施肥時に農薬を土壌混和しておきましょう。(発生害虫や処理農薬については、かけはし8月号を参照してください。)また、根コブ病の発生が懸念される圃場ではアブラナ科作物の植付けは見合わせましょう。他に適当な場所がない場合はネベジシンかフロンサイド粉剤を肥料と一緒に土壌混和しておきましょう。

◎定植について

定植は晴れの日は夕方に行いましょう。植え付け前に苗に灌水しておくことによりポットからの苗揚げがスムーズとなります。このときに灌水に併せて害虫予防としてプレバゾンフロアブル100倍液を灌注しておきます。灌注をしない場合は植え穴にジェイエース粒剤かモスピラン粒剤を株当たり1~2g入れておきます。植え込み過ぎると病害虫の発生が多くなります。適正な植栽間隔を守りましょう(概ね4株/1m)。



黒マルチの穴は日中熱気が上がり続けるので苗が弱ってしまいます。株元は土でしっかり抑えておきましょう。



カブの根コブ病
本病も増えてきております。特にカブ、白菜がかかりやすい。病原菌は土壌中におり、耕運機に付いた土で拡がりやすいので注意です。

すと培土が乾きやすくなり活着が遅れます。また、黒マルチを使用の場合は日中の熱気が上がってこないように土で開口部をしっかりと抑え込んでください。植え付けが終わったら灌水をしておきましょう。

◎定植後の管理

スムーズな活着が以降の生育を良くしますのでマメに見回って状態を確認しましょう。小さなポット苗では乾燥が早いので、活着し生育し始めるまでは晴天日は毎日灌水してください。

◎追肥

秋野菜は冬に向かう作型となるため、初期生育を良くする必要があります。そのため追肥は定植後約2週間後には第一回目の追肥を行います。2回目の追肥は結球し始めの頃となります。ちなみに1回の追肥の量は多くて株当たりペットボトルキャップ二杯程度です。現場では化成肥料のやり過ぎが良く見られます。やり過ぎるとかえって根を傷めて生育停滞の原因となります。

◎害虫防除

土壌処理剤や植え穴処理剤の効果は約1ヶ月程度です。で、害虫の発生が開始したら初期の内に農薬の散布で防除しておきましょう。

ダイコンサルハムシ 近年多発しています。成虫も幼虫も特に柔らかい葉を食害します。発生を見たら早いうちにコテツフロアブルかモスピラン水溶剤で防除します。



キシジノミハムシ 近年多発しています。成虫は極めて小さく、苗が小さいうちから葉を食害し、幼虫は根部の表面を食害します。あらかじめダイアジン粒剤かフォース粒剤を土壌混和しておきます。発生が見られたらアファーム乳剤などを散布します。



殺虫剤	対象害虫				使用倍率 (※1)	対象作物			
	アオムシ	コナガ	ヨトウムシ	アブラムシ		大根	白菜	キャベツ	ブロッコリー
モスピラン水溶剤	○	○		○	1000~4000	○14	○14	○7	○14
マラソン乳剤	○			○	1000~3000	○14	○前	○前	○3
アファーム乳剤	○	○	○		1000~2000	○7	○7	○7	○7
トレボン乳剤	○	○	○	○	1000~2000	○21	○7	○3	—
プレバゾンフロアブル	○	○	○		2000	○前	○前	○前	○前

(※1) 使用倍率は作物によって違うので確認のうえ使用の事。
対象作物欄の数字は収穫前日数を表す。(「○14」は収穫前14日まで。「○前」は収穫前日まで(24時間前まで))

家庭菜園
お奨め農薬

農薬は散布対象の野菜がそれぞれ規制されています。多くの種類の野菜を作る家庭菜園においては、汎用性のある農薬が使用勝手が良いと言えます。また散布から収穫までの日数が短い薬剤が便利です。しかも効果も出なければなりません。こうした条件に使える農薬としてお奨めするのが以下の薬剤です。

殺虫剤
モスピラン顆粒水溶剤
アクタラ顆粒水溶剤
スタークル顆粒水溶剤
トレボン乳剤
アファーム乳剤

殺菌剤
アミスター20フロアブル
トップジンM水和剤
ベンレート水和剤
ダコニール1000
ジマンダイセン水和剤

◎その他の野菜
タマネギの播種は9月10~15日となります。早く播きますと今年のようにネギ坊主が多発します。秋ジャガイモの植付けは8月末から9月上旬になります。春作と違って小さな芋を丸ごと植え付けます。9月中旬になりますとサツマイモの収穫が始まります。挿し苗してから10~120日経過後から掘り始めます。

◎農薬の希釈方法

農薬の希釈について問題があるケースが見られます。手順はまず薬液タンクに半分以上水を入れてから乳剤など液状の薬液を入れて攪拌し、所定の水量とします。水和剤など粉状の農薬はあらかじめ少量の水で充分溶かしてから投入します。タンクに先に乳剤などを入ると薬液に濃度差が生じます。また粉状の農薬を直接タンクに投入すると良好な懸濁液となりません。なお、一部の薬剤を除いて殺菌剤と殺虫剤は混用可能です。この場合はそれぞれの薬剤をある程度希釈した上で混合します。濃い薬液同士を混合してはいけません。